（第３種郵便物認可）　63.2/8 魁　秋田さ

六万人の人出でにぎわった「童っ子の雪まつり」。ポニーに触れようと子供たちが大勢集まった

### 秋田市で「童っ子の雪まつり」

# 「雪は僕らの友達だ」

## 荒天ものかは、大歓声

## 親子連れ繰り出す

「見なおそう雪国の遊びを！親しもう雪の遊びに！」をテーマに「第十三回童（わらし）っ子の雪まつり」（秋田伝承遊び研究会、秋田市など共催）が七日、秋田市の八橋運動公園で開かれた。準備段階は二年続きの雪不足と季節外れの降雨に悩まされ、主催者側は会場作りに四苦八苦だったが、この日は朝から風雪模様。今度は入場者減が心配される荒天となったが、防寒具に身を包んだ親子連れら六万人（主催者調べ）がドッと繰り出し、そり遊びや雪合戦に熱中するなど大にぎわい。例年通り馬ソリには行列ができ、今回は初登場の雪上ホーバークラフトも大人気。真冬日の中で、会場は元気な子供たちの歓声に包まれ熱気があふれていた。

「童っ子の雪まつり」は子供たちに伝統的な雪の遊びや詩情豊かな冬の行事を通して、雪に親しむ心と創造力を養ってもらおうというのが狙い。

午前十時、吹雪の中で、のろしの合図とともに開場を待ちかねていた市民らが、「待ってました」とばかりにドッと会場になだれ込んだ。

山王大通りから八橋陸上競技場に向かう〝メーンストリート〟には、湯沢市のかまくらなどの雪像がズラリ。「はい、ポーズ」と子供たちを雪像に上らせて記念撮影をする親の姿も多く、ほのぼのとした雰囲気に包まれていた。会場の一角ではぼんでんや獅子舞、もちつきなどの実演のほか、羽後町牛まつりと比内町とりとん共和国の味の競演や〝みちのく絶叫大会〟が行われ、まつりを盛り上げていた。

初登場の雪上ホーバークラフト。チビっ子の人気が集まった

馬ソリコーナーが設けられた陸上競技場前には、順番を待つ親子連れが長蛇の列を作った。初登場の雪上ホーバークラフトも大人気で、中には「もう一度、もう一度」と親にねだる子供も。ところが、「言うごど聞がね子はいねが」と突然なまはげが登場し、子供たちはビックリ。逃げ回る子供の姿も目についた。

このほか、会場入り口には水を敷き詰めて作ったカーリングレーンが設置され、子供たちは大喜び。出店が立ち並ぶ中で、昔懐かしいドン（米菓子）の実演もあり、大きな音とともに米が膨らんで米菓子に化けると、子供たちは「どうして」と目を丸くしていた。ポニーコーナーには親子のポニーが登場、「触ってみたい」という子供たちが大勢集まっていた。

---

63.2/7 魁

### 童っ子の雪まつり

# 雨で会場作り四苦八苦

## きょう秋田市で　今年はホーバークラフトも

「第十三回童っ子の雪まつり」（秋田伝承遊び研究会、秋田市など共催）がきょう七日、秋田市の八橋運動公園で開かれる。昨年は暖冬で雪不足だったが、ことしは暖冬に加え五日に降った雨のため、一日がかりで集めた雪がザラメ状態になるなど、コンディションは今一つ。それでも六日は午前中から横手市や湯沢市などから関係者が集まり、夕方までかけて雪像やかまくら造りが行われた。

同研究会の加藤亮会長によると、暖冬による雪不足で、さる四日、同公園内の雪を同市新屋の石沢建設の協力で除雪、十トントラックで五十台分の雪を集めたという。しかし、翌五日の降雨と、その後の冷え込みでザラメ状態になってしまった。このため、六日午前中から集まった横手市や湯沢市の関係者は、水をまくなどして雪をまとめ、スコップで固めるのに一苦労だった。

また、昨年から始まった雪上カーリング大会の会場では、圧雪して水をまき、レーンを作る予定でいたが、雪質が悪いため、百[illegible]キロの氷を十数本敷き詰め[illegible]やっと完成させた。このほか、陸上競技場前の広場には全日本司厨士協会秋田県本部のメンバー約二十人が、百三十五キロの氷二十本を使って氷の彫刻「大阪城」を製作した。

一方、目玉となる「羽後町牛まつり」と「比内町と[illegible]

加藤会長は「二年続きの暖冬で苦労したが、懐かしい遊びや県内の主な民俗行事を体験し、親子のきずなを深めてもらう意味でもたくさんの人に参加してもらいたい」と話している。

No. 54